

2022（令和4）年さけます来遊状況（第6報：1/31現在）

4 さけ年齢組成と体サイズ

国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所 さけます部門 資源増殖部

- 全国の年齢別来遊数では、4年魚（2018年級）は前年同期を上回っているが、平年*1は下回り、3年魚（2019年級）は1994（平成6）年以降で最も多い
- 北海道太平洋では、5年魚（2017年級）が1994年以降最も少なく、北海道日本海では、4年魚、3年魚ともに1994年以降最も多い
- 本州太平洋では、3年魚、5年魚ともに1994年以降で最も少なく、本州日本海では、5年魚が1994年以降で最も少ない
- さけの平均重量は北海道で2.83kg、本州で2.76kgとなり、それぞれ1989（平成元）年以降および1994年以降で最も小さい

*1：平年とは、1994（平成6） - 2021（令和3）年の平均値

・さけの年齢組成 （全国）

全国の主要な河川に回帰したさけの年齢組成をもとに、1月31日現在の年齢別来遊数を推定したところ、4年魚（2018年級）が全体の68%を占めて最も多く、次いで3年魚（2019年級）が25%、5年魚（2017年級）が7%となっています。4年魚および3年魚は、前年同期の211%および239%と前年を大きく上回っていますが、5年魚は前年同期の51%と下回っています。平年同期との比較では、4年魚は平年比80%、5年魚は同13%と下回っていますが、3年魚は同243%と1994（平成6）年以降で最も多い状況です（図1）。

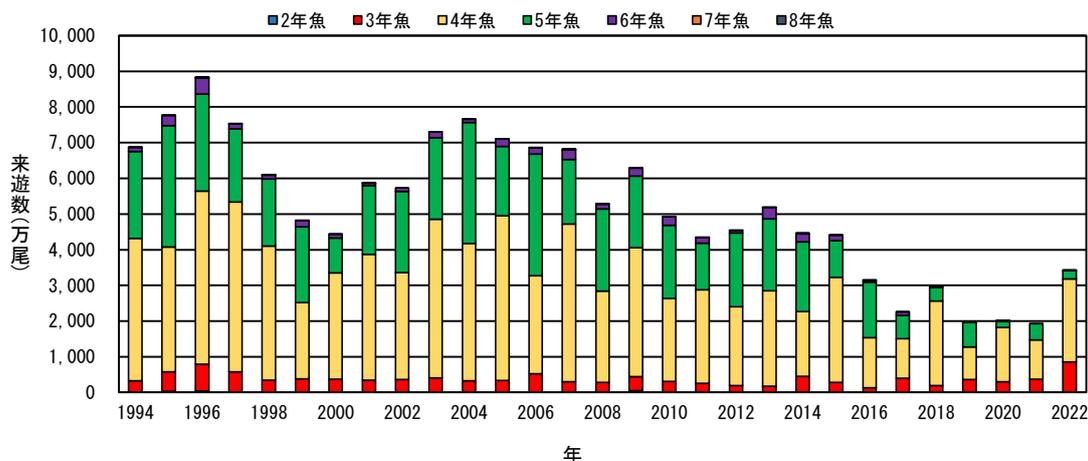


図1. 1月31日現在のさけ年齢別来遊数（全国）.

(北海道太平洋)

北海道太平洋側（根室海区～えりも以西海区）では、4年魚（2018年級）が全体の70%と最も多く、次いで3年魚（2019年級）が23%、5年魚（2017年級）が6%となっています。4年魚の来遊数は前年同期の218%、平年同期の40%、3年魚は前年同期の197%、平年同期の146%、5年魚は前年同期の56%、平年同期の6%となっており、5年魚は1994（平成6）年以降で最も少ない値となっています（図2）。

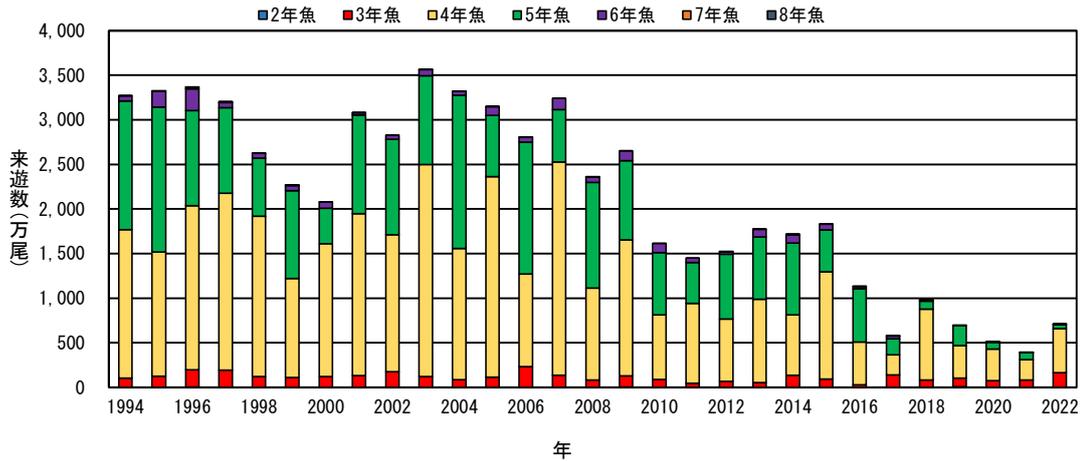


図2. 1月31日現在のサケ年齢別来遊数（北海道太平洋）.

北海道太平洋側の年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2018年級の来遊数（2～4年魚の来遊数）は、1992年級以降の平均の44%となっています。また、5年魚である2017年級の来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992年級以降2番目に少ない値となっています（図3）。

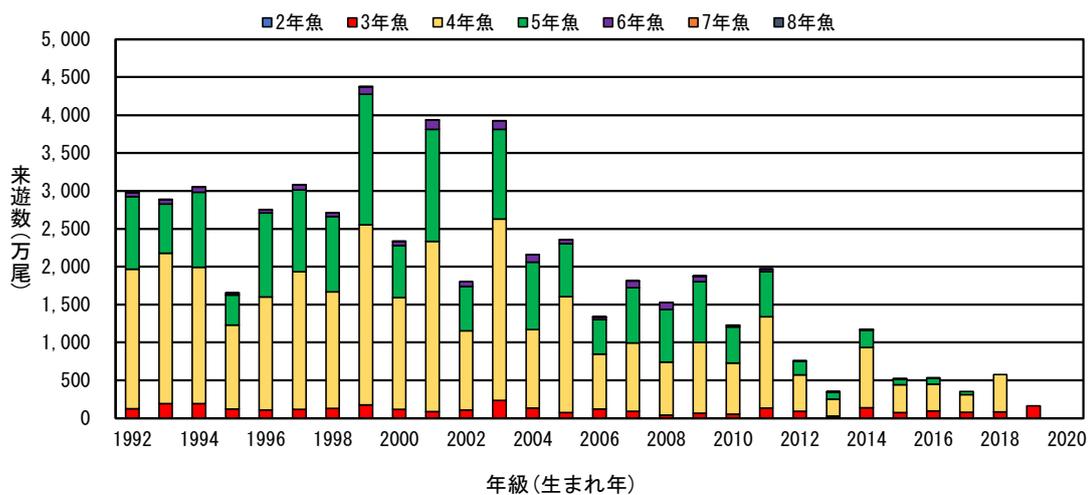


図3. 1月31日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（北海道太平洋）.

(北海道日本海)

北海道日本海側（オホーツク海区および日本海区）では、4年魚（2018年級）が全体の67%と最も多く、次いで3年魚（2019年級）が25%、5年魚（2017年級）が7%となっています。4年魚の来遊数は前年同期の209%、平年同期の169%、3年魚は前年同期262%、平年同期579%となっており、4年魚、3年魚ともに1994（平成6）年以降で最も多い値となっています。5年魚は前年同期の51%、平年同期の27%となっており、1994（平成6）年以降で3番目に少ない値となっています（図4）。

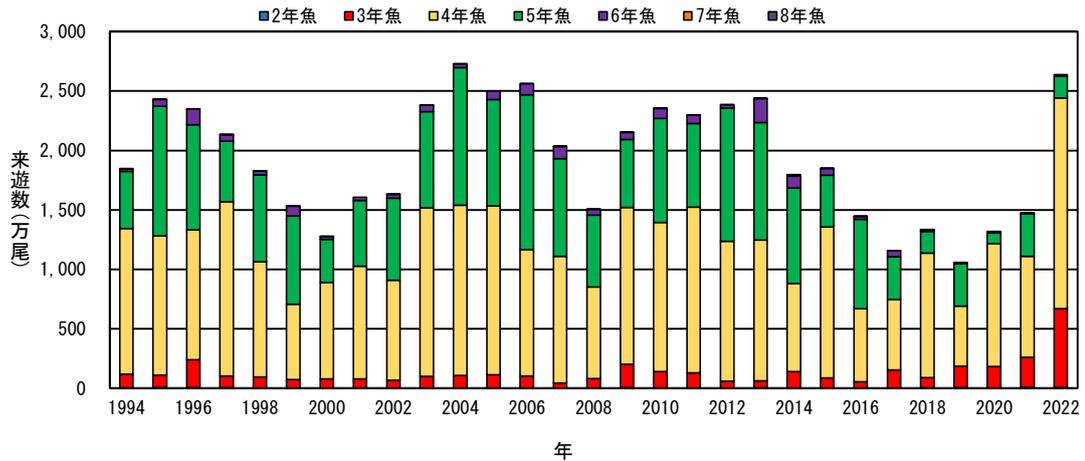


図4. 1月31日現在のサケ年齢別来遊数（北海道日本海）.

北海道日本海側の年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2018年級の来遊数（2～4年魚の来遊数）は、1992年級以降最も多く、平均の177%となっています。また、5年魚である2017年級の来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992年級以降の平均の67%となっています（図5）。

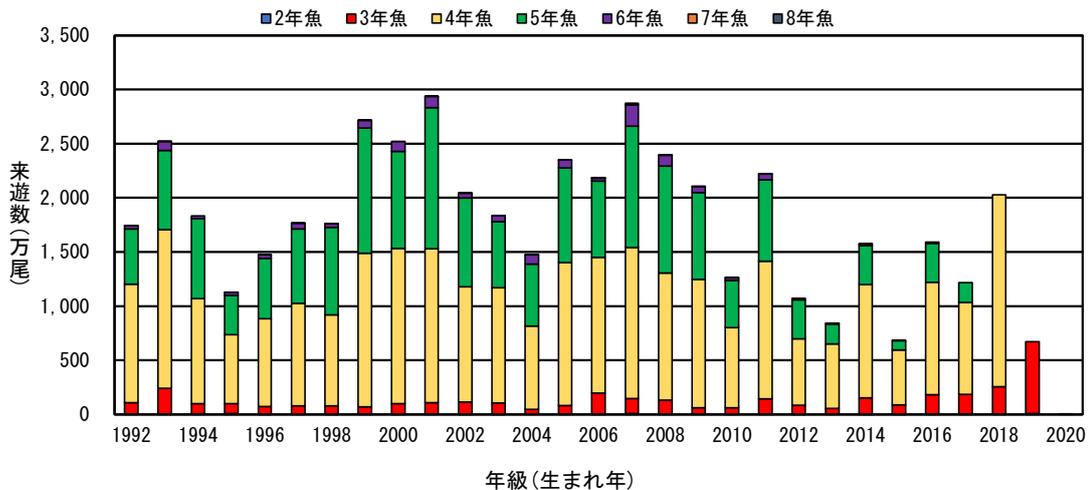


図5. 1月31日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（北海道日本海）.

(本州太平洋)

本州太平洋側では、4年魚（2018年級）が全体の82%と最も多く、次いで3年魚（2019年級）が10%、5年魚（2017年級）が6%となっています。4年魚は前年同期の182%、平年同期の5%となっており、1994（平成6）年以降では2021（令和3）年に次いで、2番目に少なくなっています。3年魚は前年同期の58%、平年同期の4%、5年魚は前年同期の26%、平年同期の1%となっており、ともに1994（平成6）年以降で最も少ない状況です（図6a および図6b）。

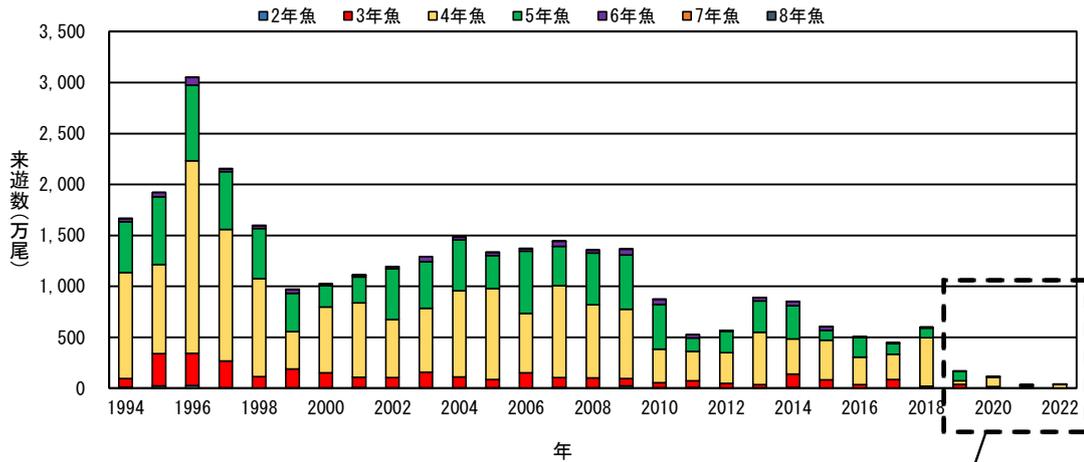


図 6a. 1月31日現在のサケ年齢別来遊数（本州太平洋）.

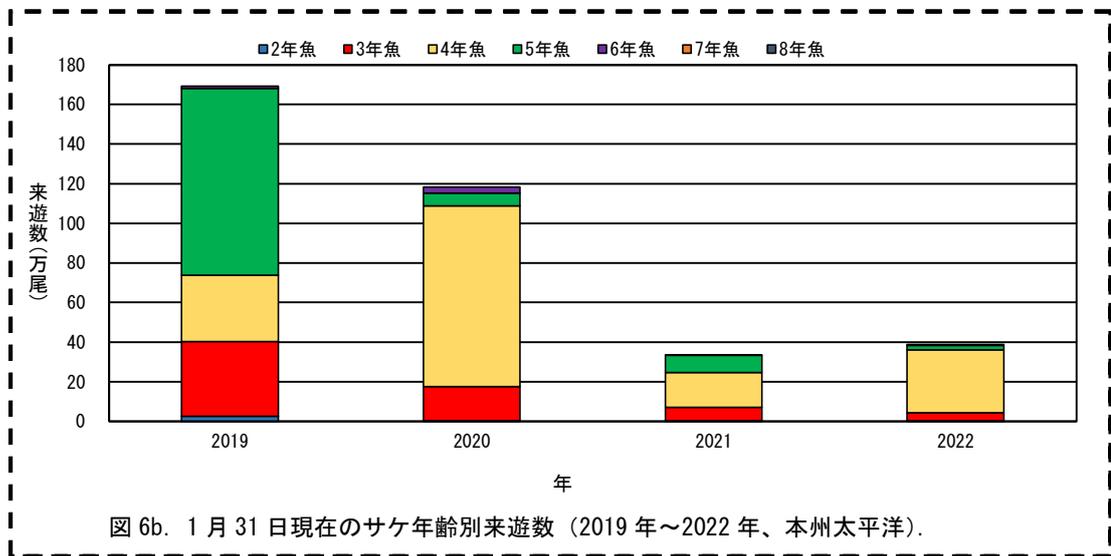


図 6b. 1月31日現在のサケ年齢別来遊数（2019年～2022年、本州太平洋）.

本州太平洋側の年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2018年級の来遊数（2～4年魚の来遊数）は、1992年級以降の平均の6%となっています。また、5年魚である2017年級の来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992年級以降の平均の4%となっています（図7a および図7b）。

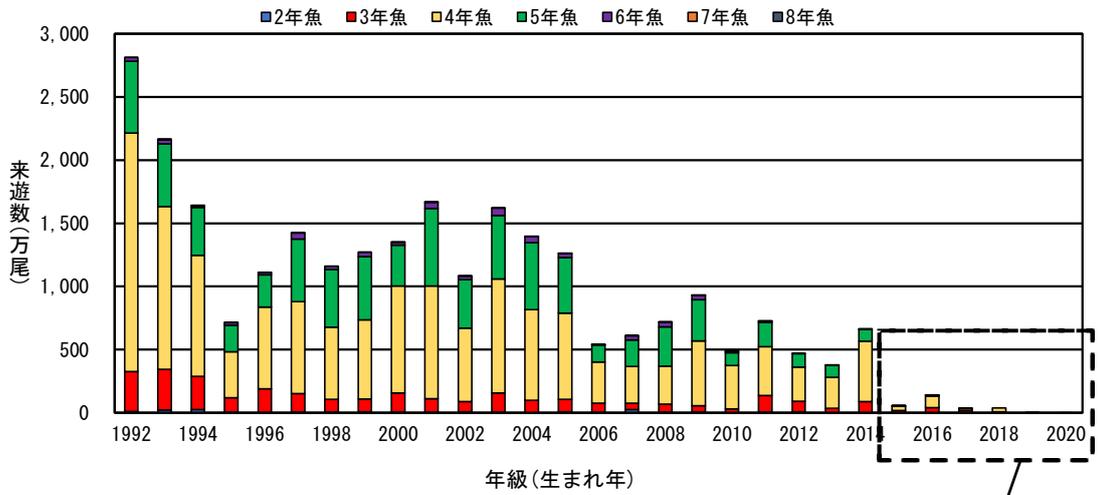


図 7a. 1 月 31 日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（本州太平洋）.

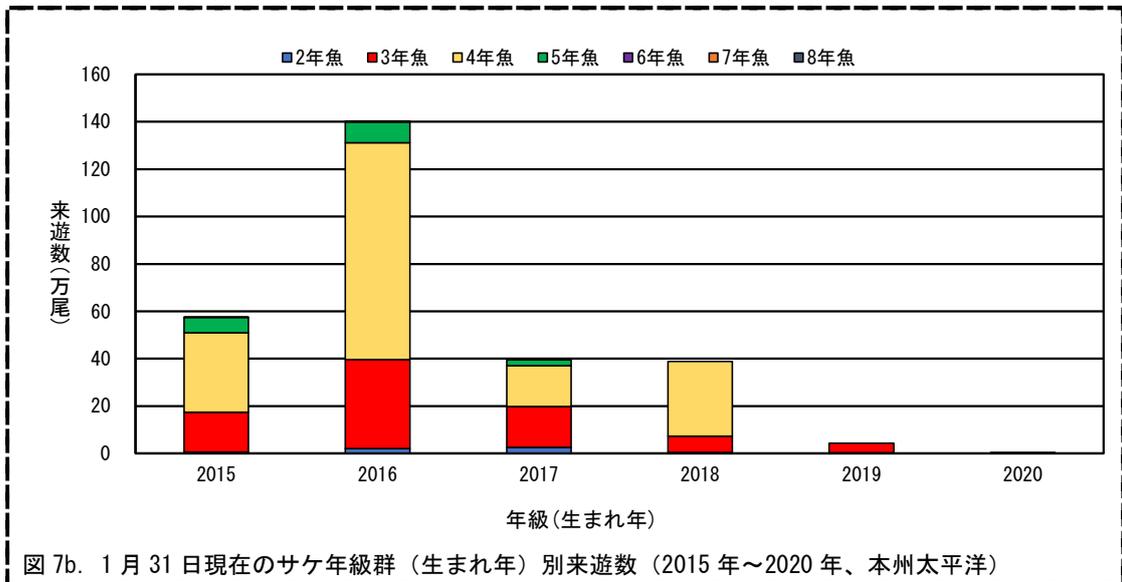


図 7b. 1 月 31 日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（2015 年～2020 年、本州太平洋）

(本州日本海)

本州日本海側の年齢別の来遊数は、4年魚（2018年級）が全体の66%と最も多く、次いで3年魚（2019年級）が30%、5年魚（2017年級）が3%と続いています。4年魚は前年同期の199%、平年同期の64%、3年魚は前年同期の133%、平年同期の92%で、ともに平年同期を下回っています。5年魚は前年同期の32%、平年同期の8%と、1994（平成6）年以降で最も少なくなっています（図8）。

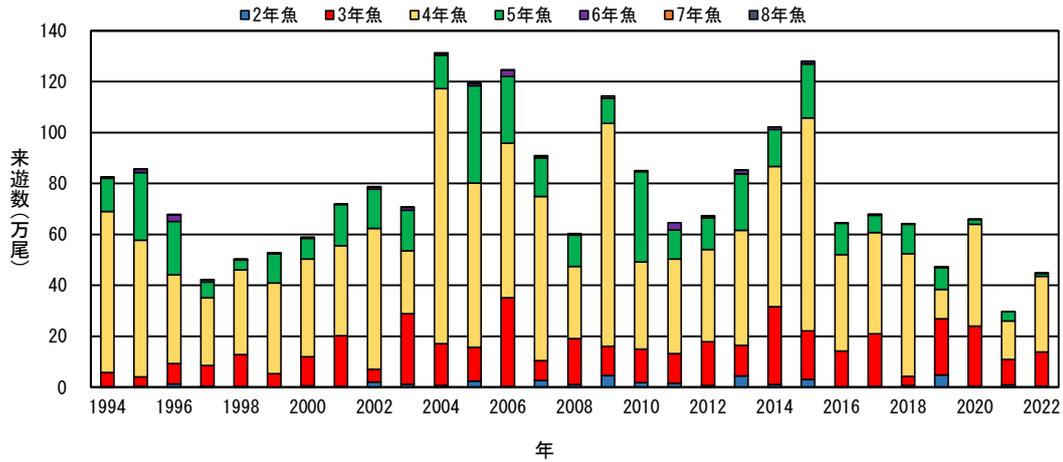


図8. 1月31日現在のサケ年齢別来遊数（本州日本海）。

本州日本海側の年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2018年級の来遊数（2～4年魚の来遊数）は、1992年級以降の平均の65%となっています。また、5年魚である2017年級の来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992年級以降の平均の58%となっています（図9）。

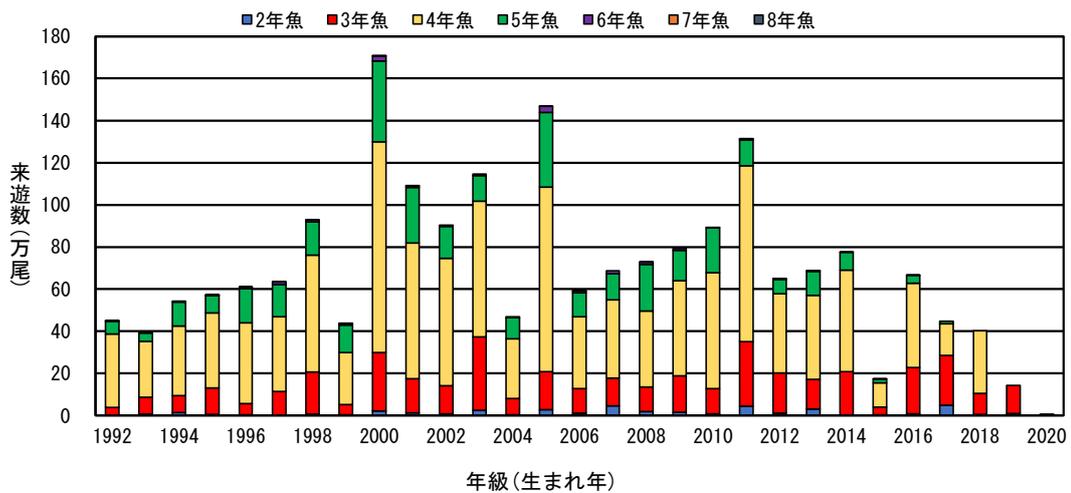


図9. 1月31日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（本州日本海）。

・サケの体サイズ

(北海道)

北海道における1月31日現在のサケ1尾当たりの平均重量(漁獲数と漁獲重量から算出)は2.83kgであり、前年同期の平均重量3.19kgを下回り、1989(平成元)年以降で最も小さくなっています(図10)。

また、北海道の主要河川に1月31日現在までに回帰したサケ4年魚の平均尾叉長は64.8cmであり、前年同期の平均尾叉長66.5cmよりも小さく、1989(平成元)年以降で8番目に小さい値となっています(図11)。

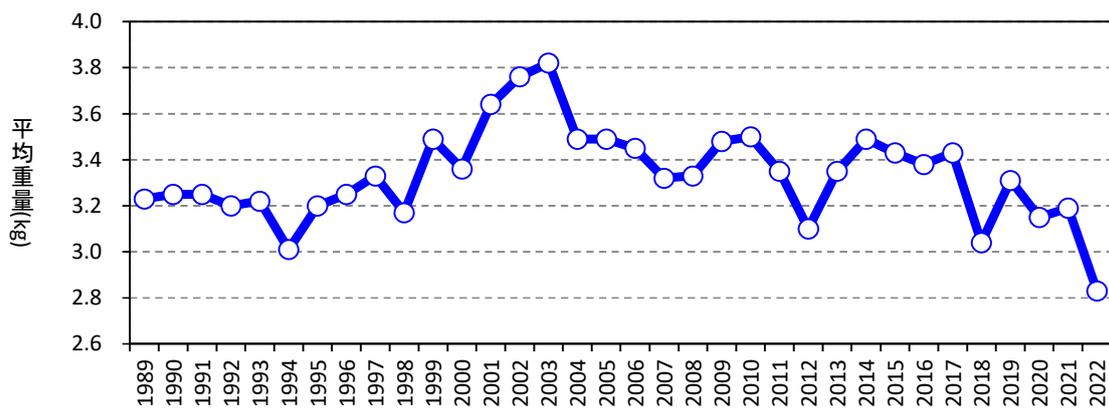


図10. 1月31日現在のサケ平均重量(北海道).

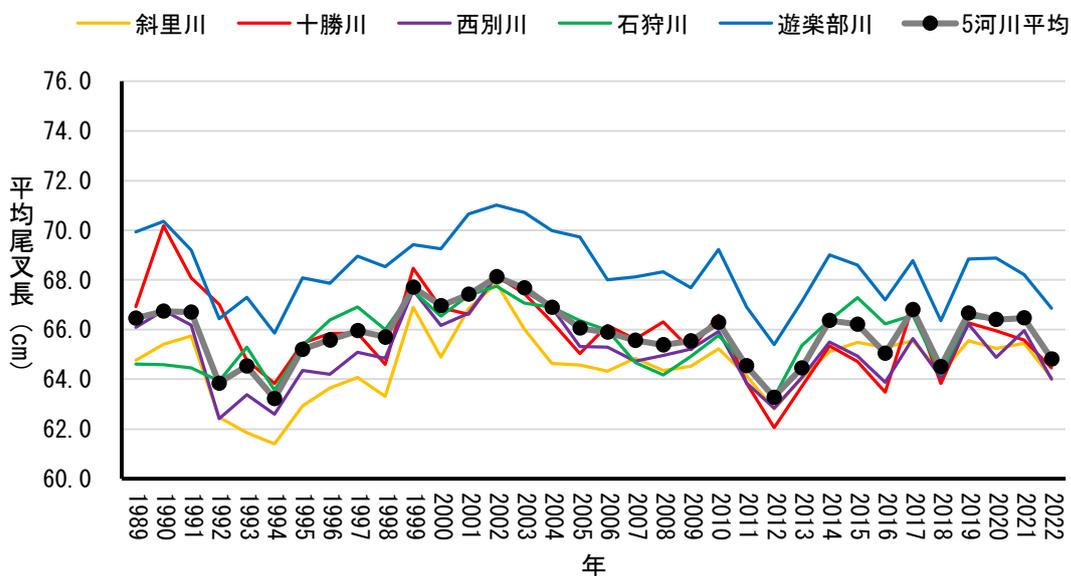


図11. 1月31日現在の北海道主要河川におけるサケ4年魚の平均尾叉長.

(本州)

本州における1月31日現在のサケ1尾当たりの平均重量(漁獲数と漁獲重量から算出)は2.76kgであり、前年同期の平均重量3.00kgを下回り、1994(平成6)年以降最も小さくなっています(図12)。

また、本州太平洋側の津軽石川、本州日本海側の月光川(牛渡川)に1月31日現在までに回帰したサケ4年魚の平均尾叉長はそれぞれ66.4cm、69.5cmであり、前年同期の平均尾叉長のそれぞれ70.3cm、71.2cmから小さくなっています(図13)。

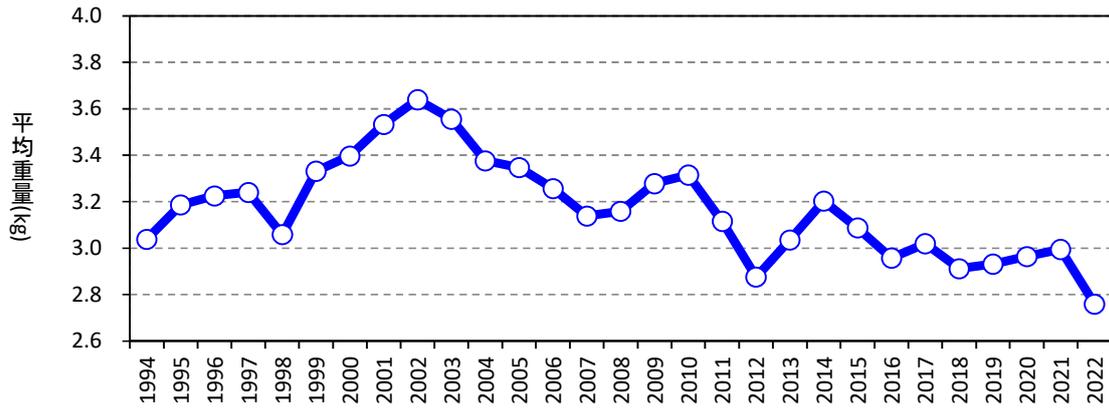


図12. 1月31日現在のサケ平均重量(本州)。

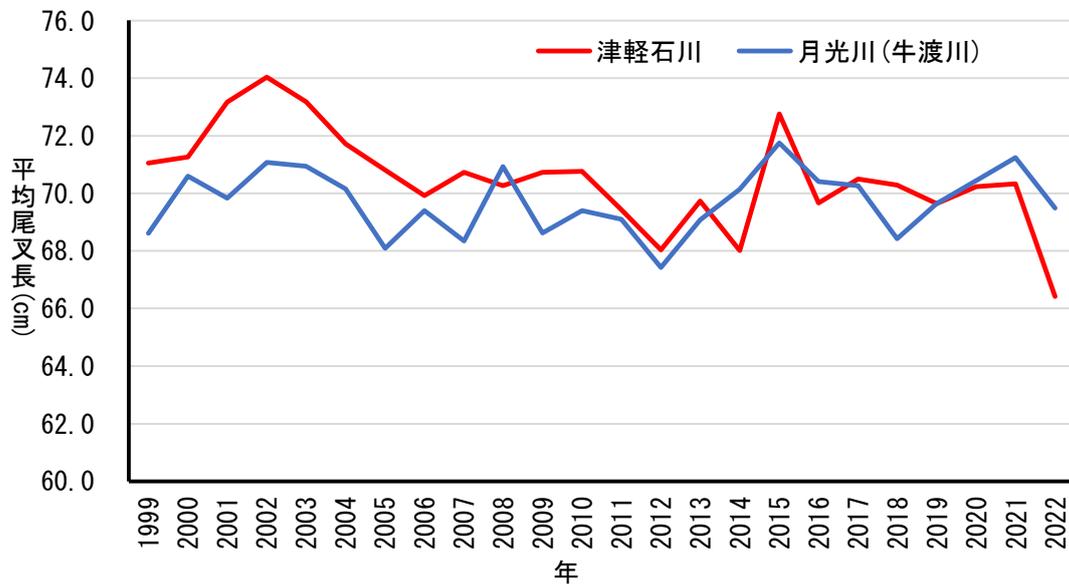


図13. 1月31日現在の本州2河川におけるサケ4年魚の平均尾叉長。